

栃木県看護連盟創立55周年記念式典



栃木県看護連盟創立 55周年記念式典

6月12日(金)

記念表彰者20名

功労賞受賞者 伊藤 正子

表彰受賞者

支部名	表彰者
うつのみや・石橋支部	柏 澄子
済生会宇都宮支部	直井 知子
自治医大支部	大川美代子
鹿沼支部	柴原 佳子
日光支部	土井恵美子
大田原支部	黒田 悦子
塩谷・塩原支部	齋藤満寿子
菅那支部	斎藤 恵子
獨協医大支部	大関 京子
芳賀支部	三澤美智子
小山支部	石嶋たね子
佐野支部	関口喜美子
足利支部	稲村小夜子
栃木支部	大出 文江
	篠原 和子
	武井 恵美
県連盟推薦者	久保知恵子
	刑部 洋子
	糟谷真知子

●授賞された方、おめでとうございます。

受賞者代表挨拶



自治医科大学附属病院

篠原 和子

入職して間もない頃は、看護協会と看護連盟の違いや関係もよくわからないままの会員でした。諸先輩からは、協会は政治活動ができないから、連盟を通して国会に要望を提出していく必要があると何回も何回も聞かされていましたが、仕事を覚えることが精一杯で、自分たちの仕事と政治のつながりはどうなっているのだろう、などと真剣に考えたことはなかったように思います。

このたび、栃木県看護連盟創立55周年を迎えるにあたり歴史を振り返ると、先人たちの努力のおかげで、社会における看護職に対する認知度の変化が国会での活躍にも繋がっているのではないのでしょうか。看護が果たすべき役割が大きく膨らみ、責任も大きくなってきています。

これからも、看護連盟の一員として、政治に関心を寄せ、選挙活動にも積極的に参加していきたいと、改めて感じた55周年でした。

栃木県看護連盟通常総会開催

6月12日(金)コンセーレ大ホールにて、242名の参加者のもと、盛大に開催



平成27年度 スローガン

ベッドサイドから政治を変える！

～看護職国会議員を擁立し当選を勝ち取る～

2025年問題を目前にした今、国民の誰もが住み慣れた地域で「安心」「安全」で、質の高い医療提供体制と地域包括ケアシステムを求めています。この国民の期待に応えて行くには、看護職の役割は重要です。

しかし、今も、現場からは「労働環境や待遇はなかなか改善されない」「看護職の確保が困難で疲労困憊状態が続いている」「出産後は仕事を続けることができない」「仕事は続けたいが親の介護で辞めなければならない」等々の声があがり続けています。

来年度の参議院選挙では、現場の声を確実に国政へ届けるために、組織の総力をもって看護職国会議員の当選を勝ち取りましょう。